
2023年度第1四半期決算 及び
2023年度業績見通し

説明資料

帝人株式会社

2023年8月7日

今回公表のポイント

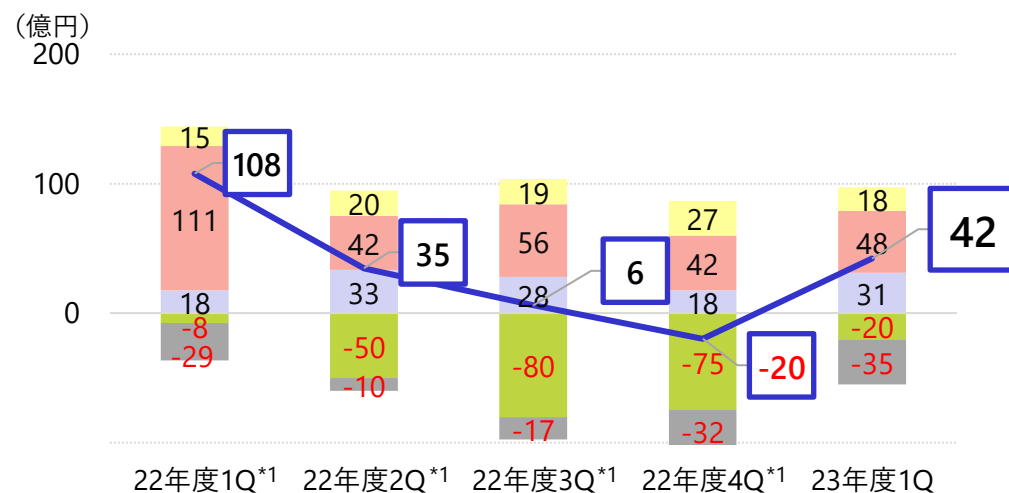
■1Q実績（前四半期対比、前年同期対比）

- 前四半期対比では、営業利益は62億円増（▲20億円→42億円）
 - マテリアル：「収益性改善に向けた改革」の施策効果の発現と一時的な生産トラブルからの回復により増益
 - ヘルスケア：4Qの医薬品買い控え、経費集中からの反動等により微増益
- 前年同期対比では、営業利益は66億円減（108億円→42億円）
 - マテリアル：前年度の工場火災影響が一部残ったことや、中国の景気回復遅延の影響等により減益
 - ヘルスケア：医薬品「フェブリク」の後発品参入や薬価改定等で減益

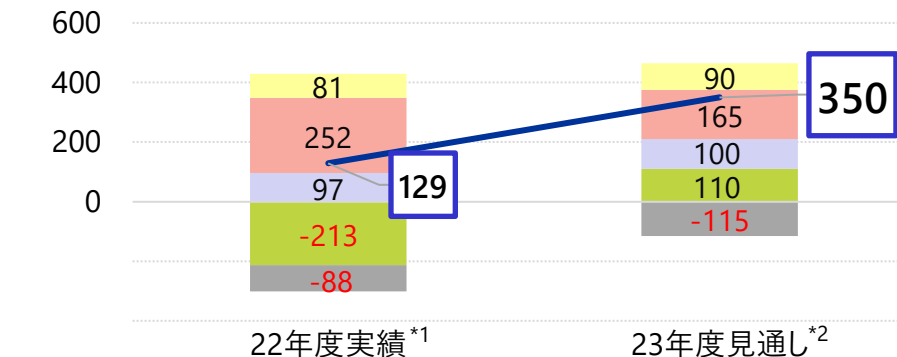
■通期業績見通し（前年度対比） 前回見通しから業績・配当予想とも変更なし

- 課題3事業（アラミド、複合成形材料、ヘルスケア）について、2月公表の「収益性改善に向けた改革」を実行
- 売上高は3.1%増の1兆500億円、営業利益は2.7倍の350億円を見込む
 - ヘルスケアは「フェブリク」の年間通しての後発品参入の影響を見込むも、上記マテリアルの改善施策の発現と前年度の一時的な生産トラブル影響の解消などにより増益を見込む
- 当期利益は130億円の見込み（前年度は177億円の損失）
- 年間配当見通しは30円/株

営業利益推移（四半期）
 折れ線グラフは合計を表示



営業利益推移
 折れ線グラフは合計を表示



*1 2023年度より新事業組織について、「マテリアル」、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。それに伴い2022年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示

*2 前回見通しから変更なし

当社の主要ターゲット市場の前提（2023年度）

需要は全般的に堅調の見通し

事業	市場	主な地域	1Q実績	2Q以降見通し	
マテリアル	アラミド	自動車	欧州、米国	• 欧州での高級車/EV向けタイヤ需要が好調	• タイヤ用途を中心に引き続き需要は堅調に推移
		産業資材	欧州、米国 中国	• 光ファイバー用途は高水準な需要が継続	• 引き続き需要は堅調に推移
		防弾・防護	欧州、米国	• 防弾・防護とも需要は堅調	• 引き続き需要は堅調に推移
	樹脂	電気電子	中国、アジア 欧米	• 中国の景気回復遅延、欧米の経済減速などにより、低調な需要継続	• 低調な需要が継続
		自動車	日本、中国 アジア	• 半導体などの不足の影響はほぼ解消し、需要回復	• 引き続き需要は堅調に推移
	炭素繊維	航空機	欧州、米国	• 旅客機利用者数の回復で旅客機需要は好調	• 引き続き需要は堅調に推移
	複合成形	自動車	米国	• 米国の自動車需要は堅調（但し、一部車種で需要減）	• 引き続き需要は堅調に推移
	繊維・製品	衣料繊維	欧米、中国 日本	• 米・中は底堅く推移するも、欧州は需要低調 • 国内消費は好調	• 欧米はインフレ・利上げにより市況は弱含み • 国内は引き続き好調に推移
産業資材		日本、中国	• 自動車関連はサプライチェーンでの在庫調整が継続	• 在庫調整局面は徐々に解消の見通し	

当社の主要ターゲット市場の前提（2023年度）

事業	市場	主な地域	1Q実績	2Q以降見通し
ヘルスケア	医薬品	日本	<ul style="list-style-type: none"> • 痛風・高尿酸血症患者数は拡大基調だが、後発品参入により市場規模（薬価売上）は縮小 • 糖尿病薬市場は微増も、厳しい競争環境が継続 	<ul style="list-style-type: none"> • リアル面談活動は増加も病院での訪問規制は継続が見込まれ、リアルとe-プロモーションのハイブリッド活動を展開する
			<ul style="list-style-type: none"> • COVID-19影響により病院では訪問規制が継続し、e-プロモーション強化が継続 	
	在宅医療		<ul style="list-style-type: none"> • 在宅酸素療法（HOT）はCOVID-19によるHOT導入は減少するも市場は横ばい 	<ul style="list-style-type: none"> • 在宅持続陽圧呼吸療法（CPAP）市場は拡大継続、検査数も緩やかに回復
			<ul style="list-style-type: none"> • 在宅持続陽圧呼吸療法（CPAP）市場は拡大継続、検査数も緩やかに回復 	
IT	電子コミック	日本	<ul style="list-style-type: none"> • 電子コミックの需要は堅調 	<ul style="list-style-type: none"> • 引き続き堅調に推移

1.	2023年度第1四半期決算	P. 5
2.	2023年度業績見通し	P.17
3	参考資料	P.25

見通しに関するご注意

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。当資料に含まれている医薬品、医療機器、再生医療等製品（開発中のものも含む）に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的とするものではありません。

本資料は2023年8月7日午前11時30分に公表した弊社決算に基づくものです。

1. 2023年度第1四半期決算

◆ 実績ハイライト [前四半期対比、前年同期対比]

【営業利益】

<前四半期対比> マテリアルは、アラミドと複合成形材料の収益性改善に向けた施策効果の発現と前年度に発生したアラミド工場の火災影響からの回復により大幅増益。繊維・製品も販売堅調により増益となった。ヘルスケアは微増益、ITは微減益となり、全体では62億円の増益

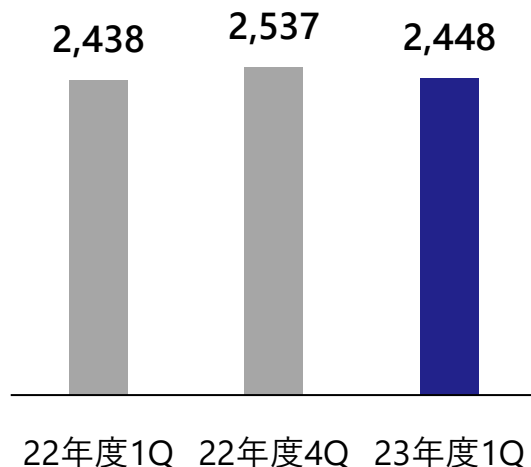
<前年同期対比> マテリアルは、販売価格改定の効果発現や原燃料価格低下が収益に貢献するも、前年度に発生したアラミド工場の火災影響が残り生産が回復途上にあることや、労務費を中心とした工場固定費等の増加が足かせとなり減益。ヘルスケアは医薬品「フェブリク」の販売減や薬価改定等で減益。一方、繊維・製品とITは増益となったが、全体では66億円の減益

(単位：億円)

売上高

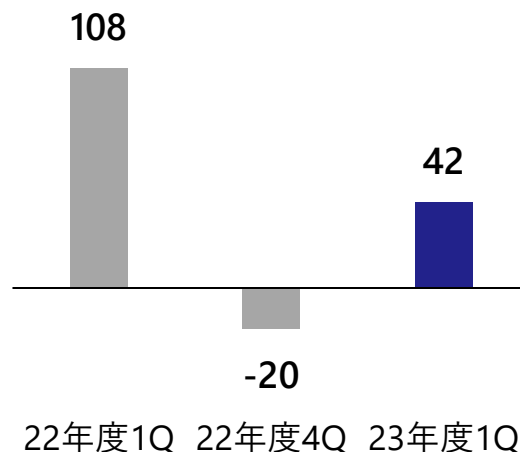
前四半期対比
前年同期対比

-3.5%
+0.4%

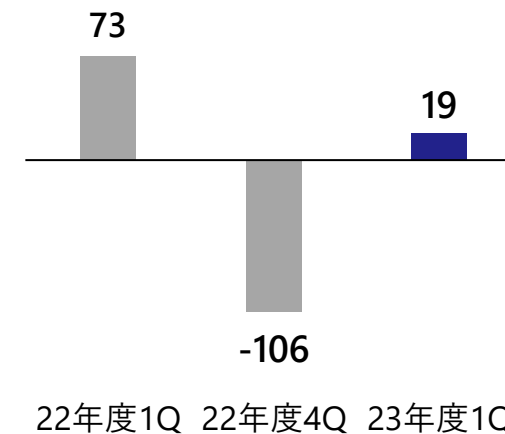


営業利益

黒字化
-60.8%

親会社株主に帰属する
四半期純利益

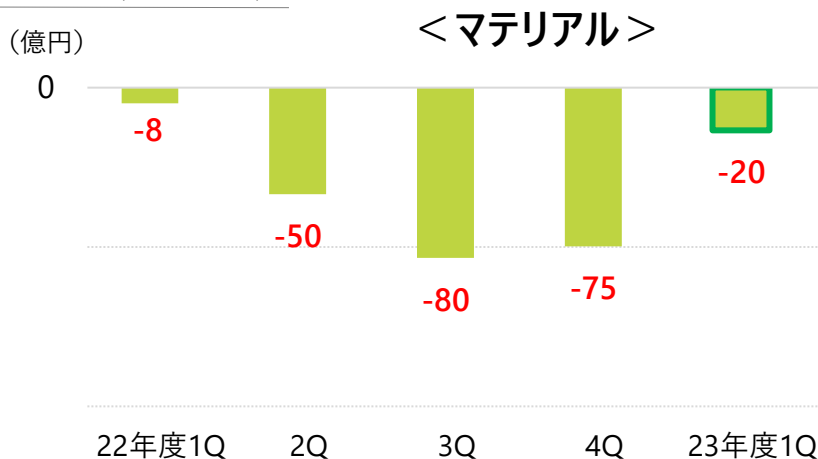
黒字化
-74.5%



◆ 実績ハイライト [前四半期対比]

セグメント	営業利益の方向・要因 (2022年4Q→2023年1Q)	
全体	➡	・マテリアルの回復が大きく寄与
-マテリアル	➡	・アラミドでの天然ガス価格低下影響、火災からの復旧に伴う工場操業度改善 ・複合成形材料では収益性改善効果が発現 (販売価格改定進捗、生産性改善)
-繊維・製品	➡	・衣料繊維が国内外で販売好調、産業資材も販売堅調
-ヘルスケア	➡	・4Qの薬価改定前医薬品買い控え、経費集中からの反動
-IT	➡	・ITサービスでのシステム・サービスの納期が4Qに集中 (季節要因) することからの反動

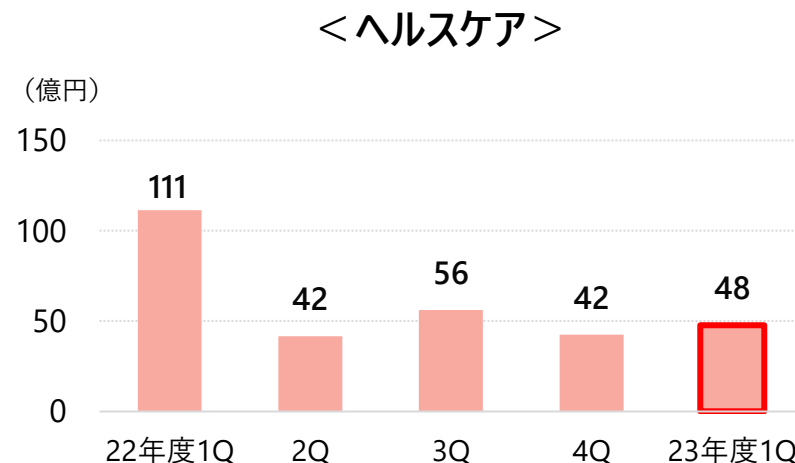
営業利益推移 (四半期)*1



(-) アラミド ガス価格高騰
(-) 複合 設備故障影響

(-) アラミド 火災影響(12月発生)
(-) 複合 OEM部品不足による販売量減・設備故障影響継続

(-) アラミド 火災影響
(+) 複合 設備故障復旧



(-) 6月の「フェブリク」後発品参入影響

(+) ライセンス対価収入
(-) 医薬品買い控え、経費集中

*1 2023年度より新事業組織について、「マテリアル」、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。それに伴い2022年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示

◆ 帝人グループ 収益性改善に向けた改革（2月公表）の進捗状況

収益性改善策 - **課題事業の収益性改善と役員・スタッフの経営体制変革**を中心に、全社で構造改革を断行する
 - これらの成果として、2023年度までに **300億円以上の収益改善**を目指す

- 複合成形材料：①一時的要因からの復旧、②収益性改善策〔約130項目の改善策、モニタリング体制強化推進〕、③選択と集中（欧・中・日）

① 一時的要因からの復旧：設備故障からは復旧し安定稼働化途上

② 収益性改善策：計画通り進捗、主要モニタリング項目は着実に改善

北米の収益性改善分野	改善アクション概要	2023年度1Q実績
販売	<ul style="list-style-type: none"> 低採算プログラム撤退 原材料費以外の増分コストの価格転嫁再交渉 	50
購買	<ul style="list-style-type: none"> サプライヤー交渉/変更、提案依頼・入札プロセス見直し 購買集中化 	15
生産	<ul style="list-style-type: none"> ベストプラクティスの横展開、在庫・物流最適化 キャパシティ有効活用を目的とした拠点統合、部分撤退 	65
2023年度収益改善額計(億円)		130

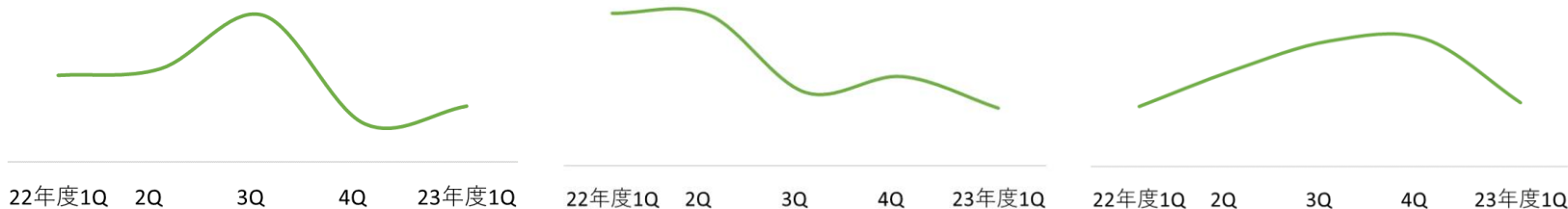
計画通り進捗

●モニタリング項目（例）推移

労務費比率（労務費/売上高）

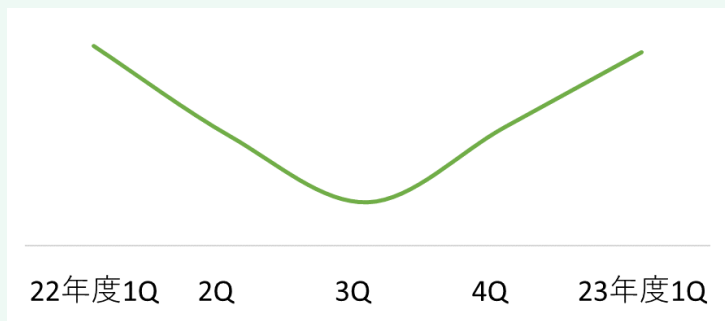
離職率（離職者数/従業員数）

スクラップ率（スクラップ額/売上高）

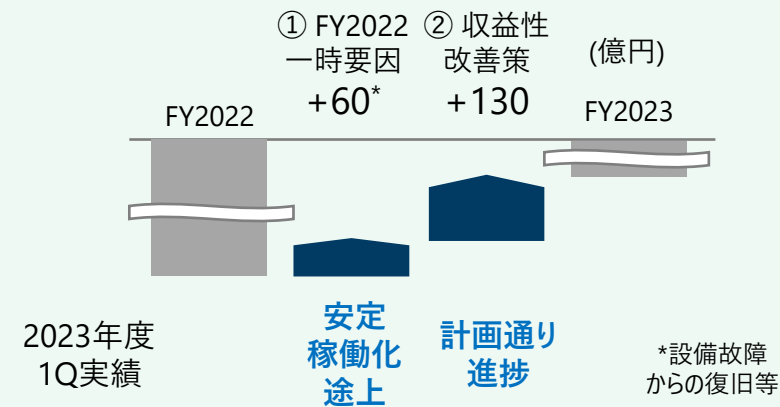


③ 選択と集中：中国事業からの撤退決定（参考資料P.26参照）

●営業利益推移



●北米事業 営業利益イメージ（2月公表）



◆ 帝人グループ 収益性改善に向けた改革（2月公表）の進捗状況

- アラミド：①一時要因からの復旧

②収益性改善策 [火災を契機とした現場力強化の取り組み、「安全」「品質」といった強みの再強化、天然ガス価格対応]

① 一時要因からの回復：原料工場の火災影響は2022年度中に前倒し回復

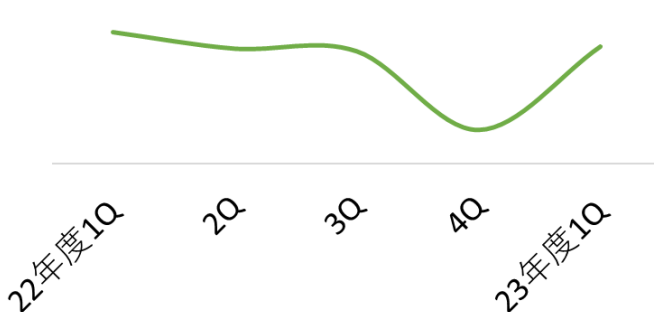
② 収益性改善策：生産安定化は計画通り進捗、

天然ガス価格下落に対応し計画より低い水準で先物予約実施

生産性改善	<ul style="list-style-type: none"> 工場火災からの早期回復、既増設ラインの生産安定化 紡糸工程を中心とした更なる自動化・デジタル化による生産革新 	23年度 1Q実績 計画を上回る進捗 (低価格でのガス先物予約実施)
天然ガス価格高騰	<ul style="list-style-type: none"> 欧州域外からの原料調達、生産拠点分散検討 調達価格の安定化（先物予約の実行等） 	
増産/増販	<ul style="list-style-type: none"> 設備能力増強の効果を早期に発現 	

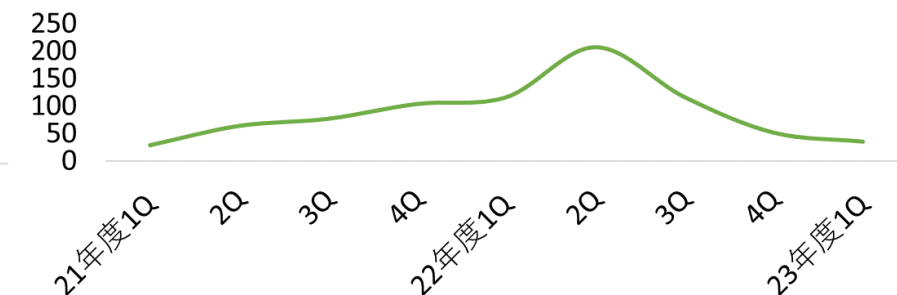
●生産量推移

2Q中に計画量到達見込み



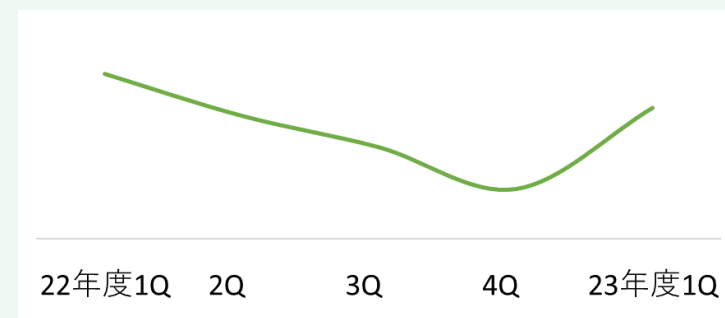
●天然ガス価格*1推移

(€/MWh)

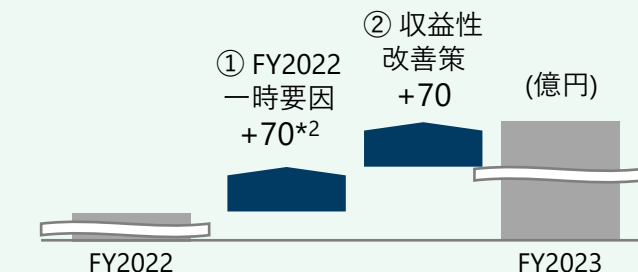


*1オランダTTF月間平均

●営業利益推移



●アラミド 営業利益イメージ（2月公表）



2023年度
1Q実績

計画を上回る進捗
(火災影響からの回復は2022
年度中に一部前倒し発現)

*2 原料工場の
火災影響等

◆ 帝人グループ 収益性改善に向けた改革（2月公表）の進捗状況

- ヘルスケア：①事業基盤を活用可能な希少疾患・難病等の医薬品導入活動、②適正なリソース規模への構造改革、③既存製品極大化

① 医薬品導入活動：計画通り推進中

② 構造改革：創薬研究機能の水平分業化（アクセリード社との創薬研究に関する合併会社設立の最終契約締結）

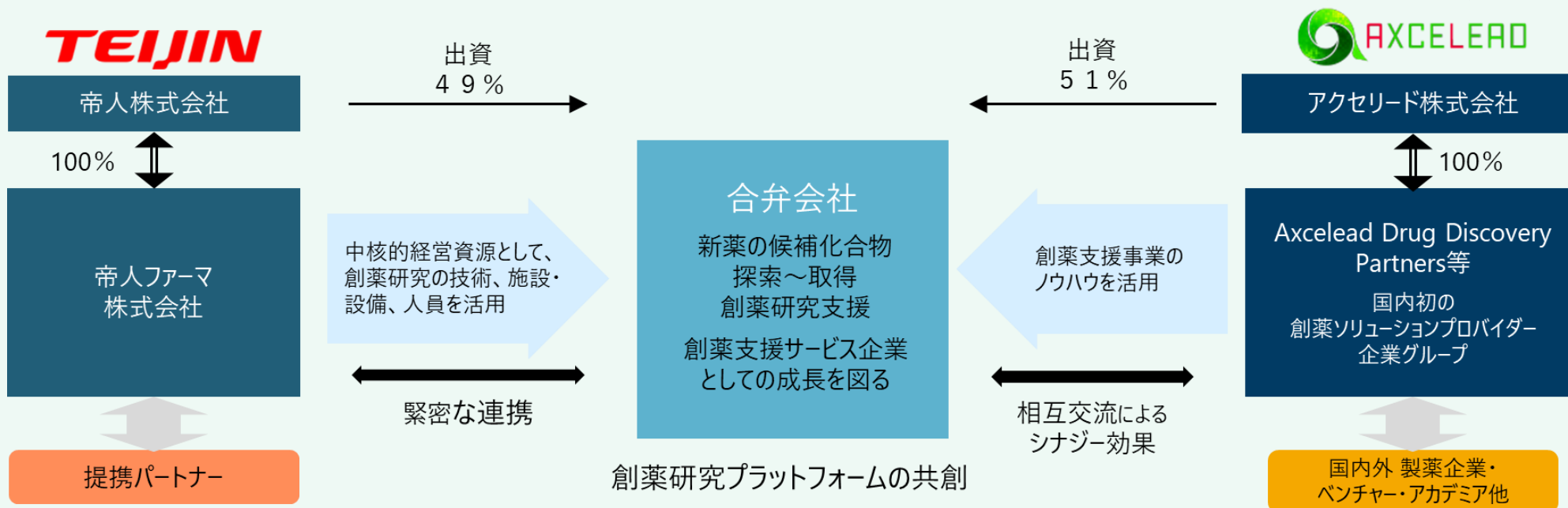
③ 既存製品極大化：計画通り推進中

◆ 帝人（株）およびアクセリードは、両社が出資し全株式を所有する新たな合併会社を設立（2024年4月1日予定）

■ 背景：海外において先行する非臨床研究をはじめとする創薬研究機能の水平分業化と新たな創薬研究サービス形態の拡大

■ 経緯：帝人の連結子会社である帝人ファーマ株式会社の創薬研究機能を中核的な経営資源とした新たな合併会社について、両社出資で設立する資本・業務提携の基本合意書を締結（2023年2月）

出資比率や組織体制などの経営に関する事項について合意。合併会社の設立を決定する最終契約締結（2023年6月）



◆ 実績サマリー [前年同期対比]

	(億円)			
	22年度 1Q	23年度 1Q	差異	増減率
売上高	2,438	2,448	+10	+0.4%
営業利益	108	42	-66	-60.8%
営業外損益	35	8	-27	-77.8%
経常利益	143	50	-93	-65.0%
特別損益	2	23	+21	-
税金等調整前 四半期純利益	145	73	-72	-49.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	73	19	-54	-74.5%
ROE ^{*1}	6.5%	1.7%	-4.8%	-
営業利益ROIC ^{*2}	5.2%	1.9%	-3.2%	-
EBITDA ^{*3}	292	238	-55	-18.8%

*1 「親会社株主に帰属する四半期純利益÷期首・期末平均自己資本」にて算出

2 「営業利益÷期首・期末平均投下資本^{}」にて算出
 (*投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金)

*1、*2は年換算後の数値

	(億円)			
	22年度 1Q	23年度 1Q	差異	増減率
設備投資 ^{*4}	135	126	-9	-6.6%
減価償却費 ^{*5}	185	195	+11	+5.8%
研究開発費	78	74	-4	-4.9%

◇ 為替・市況燃料価格

		22年度 1Q	23年度 1Q
PL換算レート	円／米ドル	130	137
	円／ユーロ	138	149
原油(Dubai)価格 (米ドル／バレル)		106	78
欧州天然ガス価格 (ユーロ／MWh)		106	36

*3 「営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)」にて算出

*4 設備投資には無形固定資産の取得を含む (M&Aは含まず)

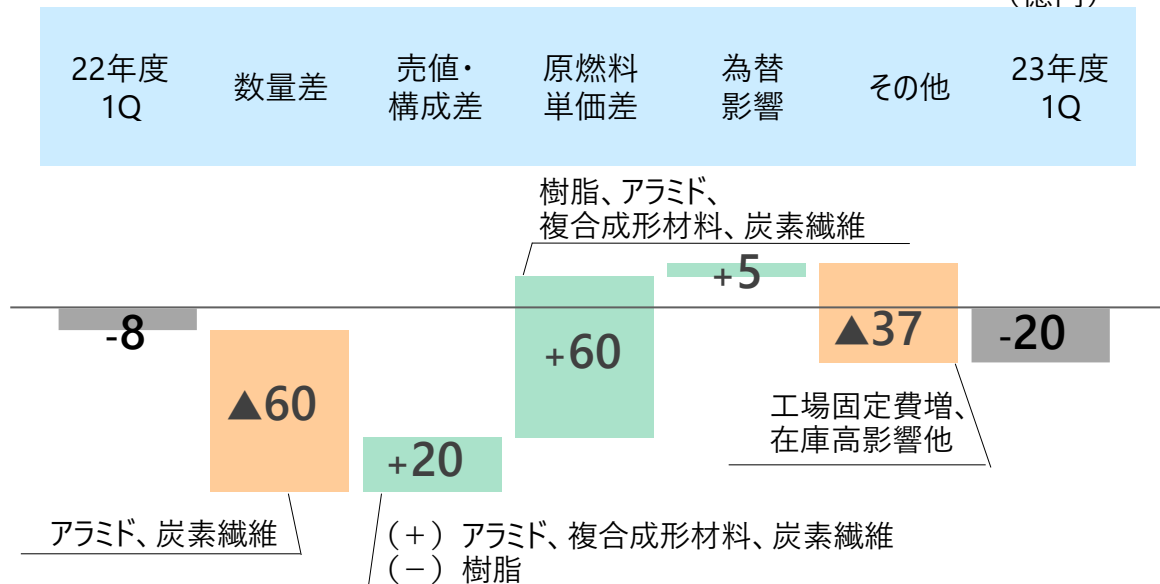
*5 のれん償却含む

◆ マテリアルセグメント [前年同期対比]

(億円)

	22年度 1Q*	23年度 1Q	差異	増減率
売上高	1,039	1,058	+19	+1.8%
EBITDA	79	75	-5	-5.9%
減価償却費	87	95	+8	+9.2%
営業利益	-8	-20	-13	-
営業利益ROIC	-1%	-2%	-1%	-

< 営業利益増減内訳 > ※2023年度よりEBITDAから営業利益に変更(億円)



■ アラミド繊維 (減収・減益)

- 原料工場火災から前倒しで復旧するも、生産回復途上のため販売可能量が不足
- 販売価格改定及び天然ガス価格低下が収益押し上げ
- 労務費単価高騰を中心とした工場固定費増、前年度のコスト高による期首在庫高影響等

■ 樹脂 (減収・前年同期並み)

- 中国の景気回復遅延や欧米の経済減速により、販売量はCOVID-19の影響を受けて低迷した前年同期並み
- 原燃料価格下落で販売価格が低下するも、スプレッドは概ね維持

■ 炭素繊維 (増収・増益)

- 航空機向け用途は販売堅調、産業向け用途は一部で軟化 (販売構成改善)
- 原燃料価格が低下する中、販売価格を維持し利益率改善

■ 複合成形材料 (増収・前年同期並み)

- 自動車需要は堅調も、一部プログラムで生産調整があり、販売量は前年同期並み
- 原料インフレに対する販売価格改定の効果が発現
- 労務費単価の高騰や補修費等の工場固定費増
- 北米での収益性改善の進捗

*2023年度より新事業組織について、「マテリアル」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。それに伴い2022年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示

◆ 繊維・製品セグメント [前年同期対比]

(億円)

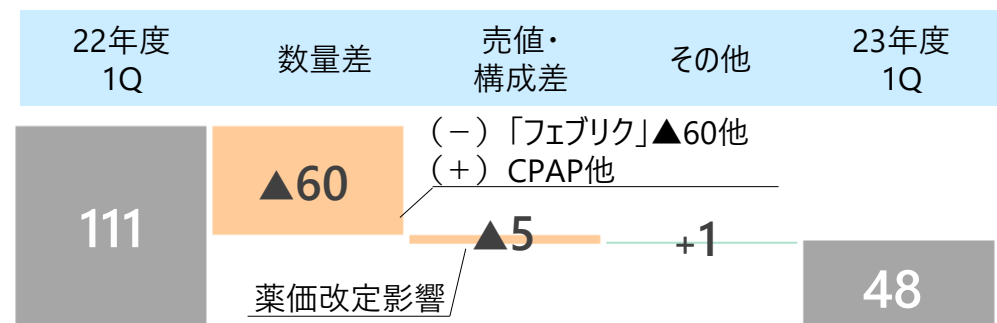
	22年度1Q	23年度1Q	差異	増減率
売上高	737	756	+19	+2.6%
EBITDA	35	51	+15	+43.9%
減価償却費	18	20	+2	+11.0%
営業利益	18	31	+14	+77.0%
営業利益ROIC	5%	9%	+3%	-

◆ ヘルスケアセグメント [前年同期対比]

(億円)

	22年度1Q ^{*1}	23年度1Q	差異	増減率
売上高	431	358	-74	-17.0%
EBITDA	177	112	-65	-36.8%
減価償却費	65	64	-1	-2.1%
営業利益	111	48	-64	-57.2%
営業利益ROIC	24%	11%	-13%	-

< 営業利益増減内訳 > ※2023年度よりEBITDAから営業利益に変更 (億円)



■ 繊維・製品

- 産業資材分野：水処理フィルター向けポリエステル短繊維、インフラ補強材の販売は堅調
- 衣料繊維分野：北米・中国向けのテキスタイル・衣料品の販売が好調に推移し、国内向けも衣料品の販売好調が継続

■ 医薬品

- 前年度(2022年6月)に「フェブリク^{*2}」の後発品が参入し販売量減少
- 「ソマチュリン^{*3}」や「ゼオメイン^{*4}」の販売量が順調に拡大
- 薬価改定影響あり
- 2023年1月に上市した骨粗鬆症治療剤「オスタバロ 1.5mg」の採用活動推進

■ 在宅医療

- CPAP：検査数は回復基調となり、レンタル台数の増加が継続
- HOT：レンタル台数は前年同期並みに高い水準を維持

*1 2023年度より新事業組織について、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。それに伴い2022年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示

*2 痛風・高尿酸血症治療剤

*3 先端巨大症・下垂体性巨人症/甲状腺刺激ホルモン産生下垂体腫瘍/膵・消化管神経内分泌腫瘍治療剤

ソマチュリン®/Somatuline®は、Ipsen Pharma (仏) の登録商標です

*4 上肢・下肢痙縮治療剤。ゼオメイン®/Xeomin®は、Merz Pharma GmbH & Co, KGaA (独) の登録商標です

◆ ITセグメント [前年同期対比]

(億円)

	22年度 1Q	23年度 1Q	差異	増減率
売上高	129	162	+33	+25.4%
EBITDA	17	20	+3	+18.4%
減価償却費	2	2	-0	-3.1%
営業利益	15	18	+3	+21.2%
営業利益ROIC	38%	52%	+13%	-

◆ その他セグメント [前年同期対比]

(億円)

	22年度 1Q ^{*1}	23年度 1Q	差異	増減率
売上高	102	115	+13	+12.8%
EBITDA	-1	-3	-2	-
減価償却費	11	8	-3	-26.7%
営業利益	-12	-11	+1	-

■ IT

- ネットビジネス分野では、電子コミックサービスにおいて広告宣伝活動の強化を継続し販売は好調に推移
- ITサービス分野では、企業向けを中心に堅調に推移

■ その他（電池部材、埋込医療機器、再生医療等）

- 電池部材分野では、セパレータが好調な販売を継続
- 埋込医療機器分野において、COVID-19の5類感染症移行後、手術件数が回復傾向であり、販売量は堅調に推移
- 再生医療分野のJ-TEC^{*2}は、概ね堅調に推移

*1 2023年度より新事業組織について、「マテリアル」、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。それに伴い2022年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示

*2 (株) ジャパン・ティッシュエンジニアリング

◆ 営業外損益 [前年同期対比]

	(億円)		
	22年度 1Q	23年度 1Q	差異
受取利息	2	6	+4
受取配当金	5	5	-1
持分法による投資利益	12	-	-12
デリバティブ評価益	71	64	-8
その他	7	8	+1
営業外収益 計	98	82	-15
支払利息	11	36	+25
持分法による投資損失	-	5	+5
為替差損	44	26	-18
デリバティブ評価損	4	4	-0
その他	3	4	+1
営業外費用 計	62	75	+12
営業外損益 計	35	8	-27

◆ 特別損益 [前年同期対比]

	(億円)		
	22年度 1Q	23年度 1Q	差異
投資有価証券売却益	11	24	+13
その他	0	4	+4
特別利益 計	11	28	+17
固定資産除売却損	4	1	-3
投資有価証券評価損	2	2	+0
その他	4	2	-1
特別損失 計	9	5	-4
特別損益 計	2	23	+21

◆ 財政状態 [前年度末対比]

				(億円)	
	23年 3月末	23年 6月末	差異	内 為替 換算影響	
総資産	12,424	13,028	+604	+372	
負債	7,913	8,315	+402	+187	
(内 有利子負債)	5,294	5,764	+470	+140	
純資産	4,511	4,713	+202	+185	
D/Eレシオ ^{*1}	1.25	1.29	+0.05	-	
D/Eレシオ(資本性調整後) ^{*2}	1.10	1.15	+0.05	-	

◇ 総資産 増減内訳

	(億円)		
	23年 3月末	23年 6月末	差異
現金及び預金	1,428	1,522	+94
売上債権 ^{*3}	1,865	1,818	-47
棚卸資産	1,967	2,153	+186
固定資産	5,084	5,224	+140
投資有価証券	821	852	+31
その他	1,259	1,459	+200
総資産 計	12,424	13,028	+604

◆ キャッシュ・フローの状況 [前年同期対比]

	(億円)		
	22年度 1Q	23年度 1Q	差異
営業活動	216	-12	-227
投資活動	-150	-154	-4
フリー・キャッシュ・フロー	66	-166	-232
財務活動他	58	259	+201
現金及び現金同等物増減	123	92	-31

◇ BS換算レート

	23年	23年
	3月末	6月末
円/米ドル	134	145
円/ユーロ	146	158

*1 「有利子負債÷自己資本」にて算出 (グロス表示)

*2 劣後債資本性調整後のD/Eレシオ (2021年7月21日 劣後債 600億円発行済)

*3 契約資産含む

2. 2023年度業績見通し

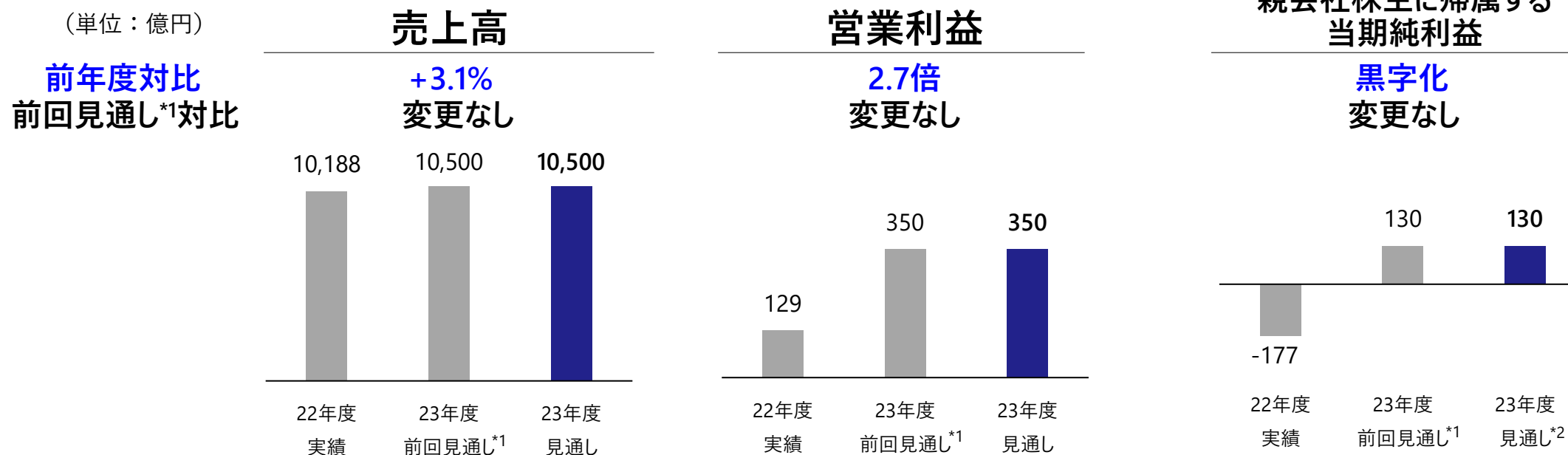
◆ 通期業績見通しハイライト [前年度対比、前回見通し*1対比]

【営業利益】

<前年度対比> マテリアルにおける生産性改善、追加的な販売価格改定、増産/増販などの収益性改善施策の発現や、前年度一時的に発生した生産トラブルの解消等が、ヘルスケアの後発品参入の影響をカバーし増益となる見通し

<前回見通し*1対比> マテリアルにおいて、複合成形材料の工場設備故障からの復旧は稼働安定化の遅延を見込むも、アラミドの想定以上の原燃料価格低下により、収益性改善施策の効果総額は予定通り発現見込みのため、前回見通しを据え置き

(単位：億円)



前提条件

		22年度	23年度 前回見通し*1	23年度 見通し
通期平均為替レート	円/米ドル	135	135	136
	円/ユーロ	141	140	150
原油(Dubai)価格 (米ドル/バレル)		92	80	79
欧州天然ガス価格 (ユーロ/MWh)		116	70	57

2023年度配当金見通し (前回見通し*1から変更なし)
年間 30円/株

*1 2023年5月11日公表

*2 複合成形材料の中国事業の株式譲渡に伴い計上予定の約64億円の特別損失を織り込み済み

◆ 通期業績見通しサマリー [前年度対比、前回見通し*1対比]

(億円)

	22年度 実績	23年度 見通し*2	差異	増減率	23年度 前回見通し*1
売上高	10,188	10,500	+312	+3.1%	10,500
営業利益	129	350	+221	+172.1%	350
経常利益	91	310	+219	+240.7%	310
親会社株主に帰属する当期純利益	-177	130	+307	-	130
ROE *3	-4.1%	3%	+7%		3%
営業利益ROIC *4	1.6%	4%	+3%		4%
EBITDA *5	878	1,130	+252		1,130
フリー・キャッシュ・フロー	27	0	-27		0
設備投資 *6	625	850	+225		850
減価償却費 *7	749	780	+31		780
研究開発費	319	330	+11		330
D/Eレシオ *8	1.25	1.2	-0.0		1.2
D/Eレシオ（資本性調整後） *9	1.10	1.1	+0.0		1.1

*1 2023年5月11日公表 *2 前回見通しから変更なし

*3 「親会社株主に帰属する当期純利益÷期首・期末平均自己資本」にて算出

4 「営業利益÷期首・期末平均投下資本」にて算出（*投下資本＝純資産＋有利子負債－現金及び預金）

*5 「営業利益＋減価償却費（のれんを含む）」にて算出 *6 設備投資には無形固定資産の取得を含む（M&Aを含まず）








*7 のれん償却含む *8 「有利子負債÷自己資本」にて算出（グロス表示）

*9 劣後債資本性調整後のD/Eレシオ（2021年7月21日 劣後債 600億円発行済）

◆ セグメント別 売上高・営業利益 [前年度対比、前回見通し*1対比]

					(億円)
	22年度 実績*2	23年度 見通し*3	差異	増減率	23年度 前回見通し*1
売上高					
マテリアル	4,387	4,700	+313	+7.1%	4,700
繊維・製品	3,221	3,150	-71	-2.2%	3,150
ヘルスケア	1,506	1,400	-106	-7.1%	1,400
IT	580	650	+70	+12.0%	650
その他	494	600	+106	+21.5%	600
合計	10,188	10,500	+312	+3.1%	10,500

					(億円)
	22年度 実績*2	23年度 見通し*3	差異	増減率	23年度 前回見通し*1
営業利益					
マテリアル	-213	110	+323	-	110
繊維・製品	97	100	+3	+3.4%	100
ヘルスケア	252	165	-87	-34.4%	165
IT	81	90	+9	+11.2%	90
その他	-15	-35	-20	-	-35
消去又は全社	-73	-80	-7	-	-80
合計	129	350	+221	+172.1%	350

セグメント	営業利益の方向・要因	
	前年度対比	前回見通し*1対比
全体	 • マテリアルの回復が大きく寄与	 • 前回見通しから変更なし
-マテリアル	 • 収益性改善施策の効果発現 • 火災、設備故障などの一時的要因からの回復	
-繊維・製品	 • 衣料繊維、産業資材とも国内外で堅調な需要が継続	
-ヘルスケア	 • 医薬品「フェブリク」の後発品参入による販売量減影響	
-IT	 • 堅調なネットビジネスにより増益を見込む	
-その他	 • CDMO事業立ち上げに伴う先行費用発生	

*1 2023年5月11日公表

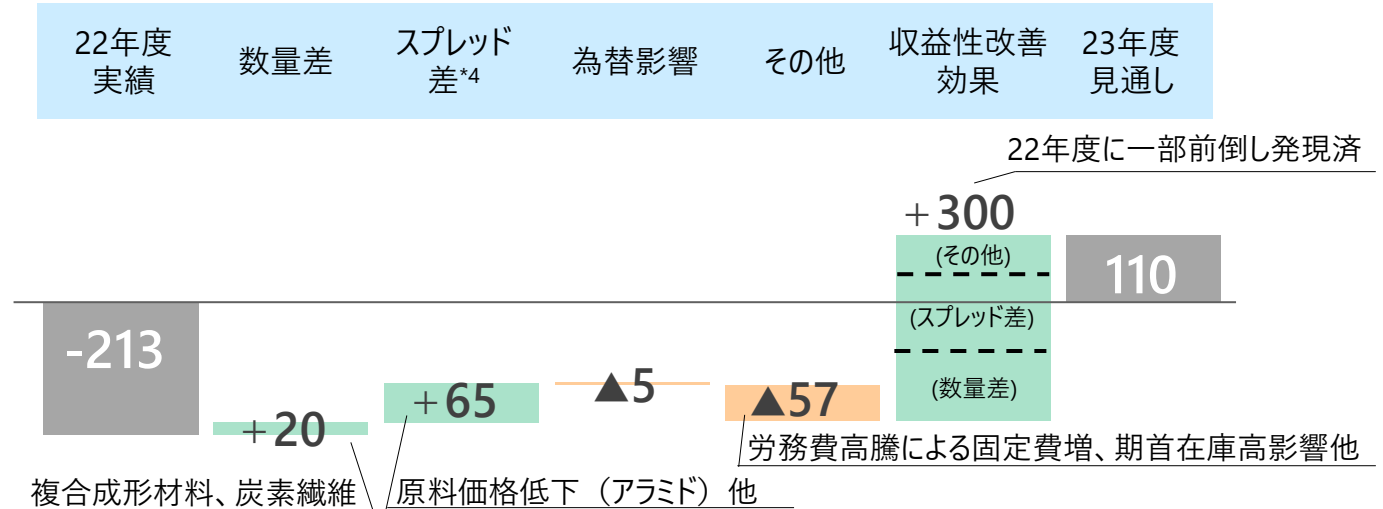
*2 2023年度より新事業組織について、「マテリアル」、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。それに伴い2022年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示

*3 前回見通しから変更なし

◆ マテリアルセグメント **[前年度対比、前回見通し*1対比]**

	22年度	23年度	差異	(億円)
	実績*2	見通し*3		23年度 前回見通し*1
売上高				
高機能材料	2,748	2,900	+152	2,900
複合成形材料	1,638	1,800	+162	1,800
計	4,387	4,700	+313	4,700
EBITDA	147	480	+333	480
減価償却費	360	370	+10	370
営業利益	-213	110	+323	110
営業利益ROIC	-6%	3%	+9%	3%

< 営業利益増減内訳 > ※2023年度よりEBITDAから営業利益に変更 (億円)



サブセグメント	営業利益の方向・要因	
	前年度対比	前回見通し*1対比
アラミド	<ul style="list-style-type: none"> 生産制約解消や増設効果の発現による増産・増販 原料工場の火災等による影響解消 原燃料価格の低下 	<ul style="list-style-type: none"> 更に原燃料価格低下
樹脂	<ul style="list-style-type: none"> 低調な需要が継続し、販売量は前年度並み 	<ul style="list-style-type: none"> 中国での需要回復遅延
炭素繊維	<ul style="list-style-type: none"> 航空機需要のさらなる回復に伴う販売構成改善 北米新工場フル稼働による販売量増 	<ul style="list-style-type: none"> 前回見通しから変更なし
複合成形材料	<ul style="list-style-type: none"> 価格再交渉、コスト削減施策等による収益性改善 設備故障による一時的な生産性悪化に伴う追加費用の解消 労働力不足影響の低下 	<ul style="list-style-type: none"> 設備故障復旧後の安定稼働化遅延 一部プログラムの販売量減

*1 2023年5月11日公表

*2 2023年度より新事業組織について、「マテリアル」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。それに伴い2022年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示

*3 前回見通しから変更なし *4 売値・構成差 + 原燃料単価差

◆ 繊維・製品セグメント [前年度対比、前回見通し*1対比]

(億円)

	22年度 実績	23年度 見通し*3	差異	23年度 前回見通し*1
売上高	3,221	3,150	-71	3,150
EBITDA	166	170	+4	170
減価償却費	69	70	+1	70
営業利益	97	100	+3	100
営業利益ROIC	7%	7%	+0%	7%

営業利益の方向・要因	
前年度対比	前回見通し*1対比
→ <ul style="list-style-type: none"> • (+)産業資材：自動車関連の市況回復、水処理フィルター向けポリエステル短繊維販売伸長 • (-)衣料繊維：海外市場弱含み 	→ <ul style="list-style-type: none"> • 前回見通しから変更なし

◆ ヘルスケアセグメント [前年度対比、前回見通し*1対比]

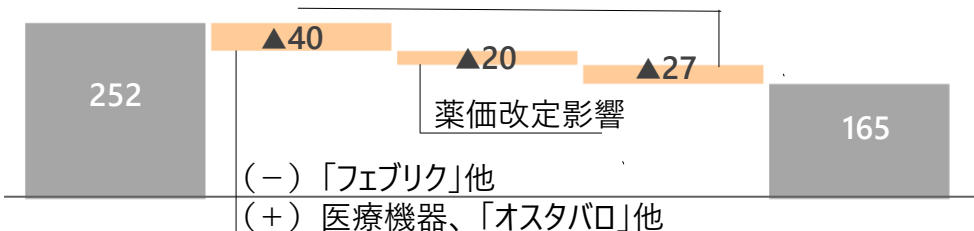
(億円)

	22年度 実績*2	23年度 見通し*3	差異	23年度 前回見通し*1
売上高	1,506	1,400	-106	1,400
EBITDA	510	425	-85	425
減価償却費	259	260	+1	260
営業利益	252	165	-87	165
営業利益ROIC	14%	10%	-4%	10%

営業利益の方向・要因	
前年度対比	前回見通し*1対比
→ <ul style="list-style-type: none"> • (-)医薬品「フェブリク」の後発品参入による販売量減 • (-)薬価改定影響 • (-)ライセンス対価収入の減少 • (+)医薬品「オスタバロ」の増販 • (+)医療機器の販売量・レンタル台数増 	→ <ul style="list-style-type: none"> • 前回見通しから変更なし

22年度 実績	数量差	売値・ 構成差	その他	23年度 見通し
252				165

(-) ライセンス対価収入の減少他
 (+) 販管費・研究費減少他



*1 2023年5月11日公表

*2 2023年度より新事業組織について、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。それに伴い2022年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示

*3 前回見通しから変更なし

◆ ITセグメント [前年度対比、前回見通し*1対比]

	22年度	23年度	差異	23年度
	実績	見通し*3		前回見通し*1
売上高	580	650	+70	650
EBITDA	88	100	+12	100
減価償却費	7	10	+3	10
営業利益	81	90	+9	90
営業利益ROIC	53%	66%	+14%	66%

(億円)

営業利益の方向・要因			
前年度対比		前回見通し*1対比	
→	<ul style="list-style-type: none"> • (+) ネットビジネス：電子コミックサービスの伸長 • (+) ITサービス：病院向け、企業向けともに堅調に推移 	→	<ul style="list-style-type: none"> • 前回見通しから変更なし

◆ その他セグメント [前年度対比、前回見通し*1対比]

	22年度	23年度	差異	23年度
	実績*2	見通し*3		前回見通し*1
売上高	494	600	+106	600
EBITDA	30	25	-5	25
減価償却費	46	60	+14	60
営業利益	-15	-35	-20	-35

(億円)

営業利益の方向・要因			
前年度対比		前回見通し*1対比	
→	<ul style="list-style-type: none"> • (+) 再生医療・埋込医療機器：J-TECにおける販売増、埋込医療機器事業の販売好調 • (±) 電池部材・メンブレン：セパレータは堅調 • (-) 再生医療・埋込医療機器：CDMO事業立ち上げに伴う先行費用発生 	→	<ul style="list-style-type: none"> • 前回見通しから変更なし

*1 2023年5月11日公表

*2 2023年度より新事業組織について、「マテリアル」、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。それに伴い2022年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示

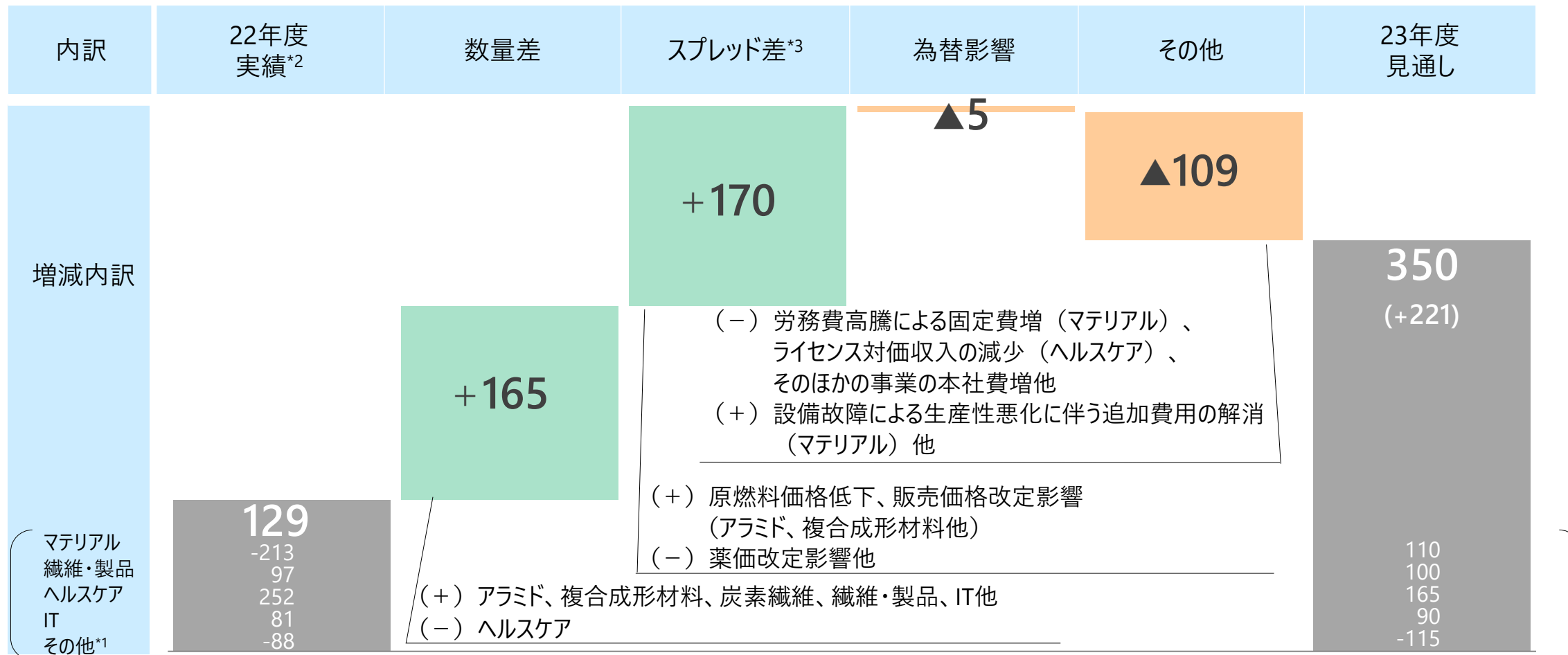
*3 前回見通しから変更なし

2023年度業績見通し 営業利益増減要因（前年度対比）

*2023年度よりEBITDAから営業利益に変更

- マテリアルにおける生産性改善、追加的な販売価格改定、増産/増販などの収益性改善施策の発現や、前年度一時的に発生した生産トラブルの解消等が、ヘルスケアの後発品参入の影響をカバーし増益となる見通し

(億円)



*1 その他は「その他」及び「消去又は全社」の合計としている

*2 2023年度より新事業組織について、「マテリアル」、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。それに伴い2022年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示

*3 売値・構成差 + 原燃料単価差

3. 参考資料

◆ 複合成形材料の中国事業から撤退を決定

■ 株式譲渡の理由

- － 重点地域である北米拠点へ集中的な資源配分を実施し、収益性改善に向けた施策を実行
- － その他の拠点（欧州、中国、日本）については選択と集中に関する検討を実施
- － 検討の結果、中国拠点につき、株式譲渡することを決定
- － これにより当社は中国での自動車向け複合成形材料事業から撤退

■ 中国拠点概要

名称：Teijin Automotive Technologies (Tangshan) Co., Ltd

所在地：中華人民共和国河北省唐山市

持分比率：帝人（中国）投資有限公司 53%、Teijin Automotive Technologies, Inc. 47%

損益状況：22年度 売上高 約37億円、営業損失 約20億円

■ 譲渡先の概要

名称：青島科達時代智能裝備有限公司

所在地：中華人民共和国山東省青島市

事業内容：高性能複合材料の研究開発、生産、販売

■ スケジュール

株式譲渡契約締結：2023年8月（予定）

株式譲渡実行：2024年3月（予定）関係当局等の許認可を取得し次第速やかに実行

■ 会計処理の概要

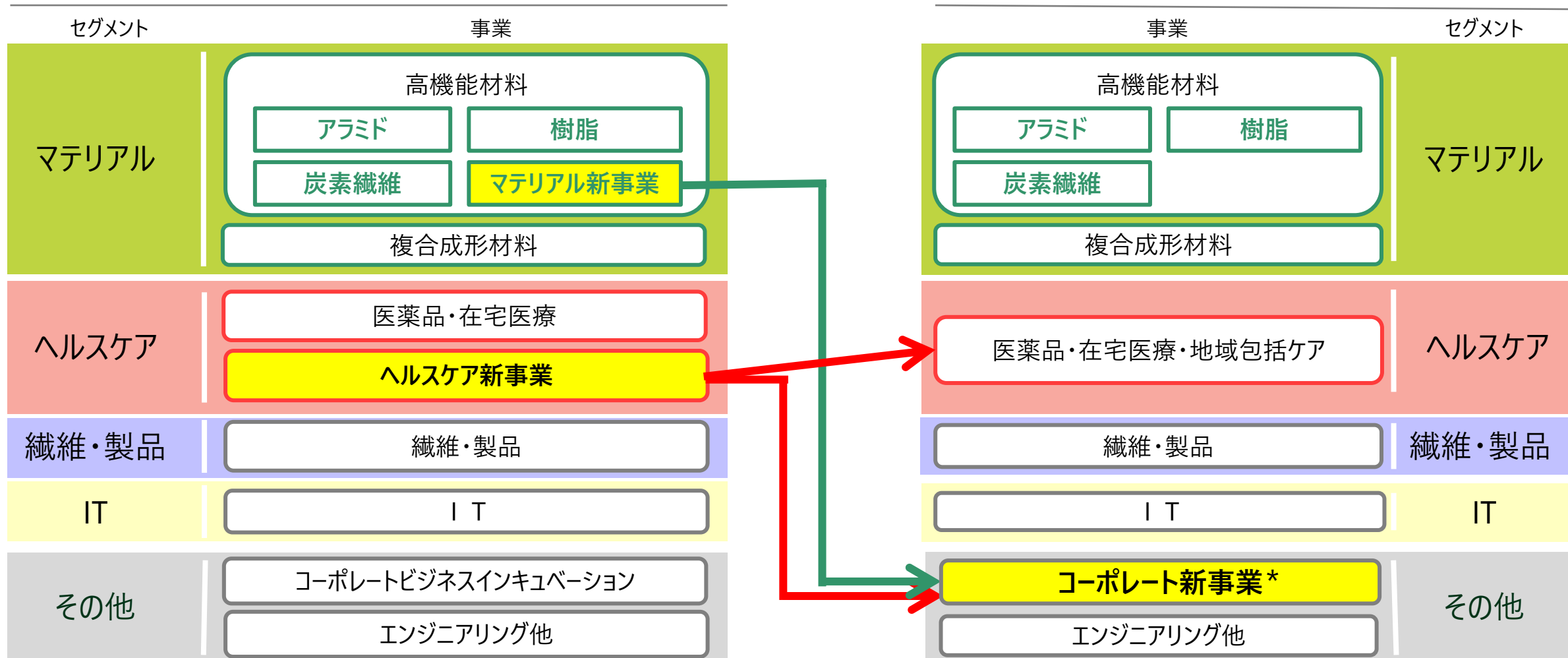
2023年度の連結業績において約64億円の特別損失の計上を見込む（2023年度の業績見通しに織込済）

開示セグメントの変更

将来投資の領域となる新規事業、事業間の協創によるイノベーションの創出をコーポレートにて横断的に実施する体制へ
 (マテリアル、ヘルスケア内の新事業をコーポレートインキュベーション部門と統合し、コーポレート新事業本部として再編)

～2022年度

2023年度～



*再生医療・埋込医療機器、電池部材・メンブレン、ピオリエ・ニュートラシューティカル、環境ソリューション等

定常的な損益影響要因

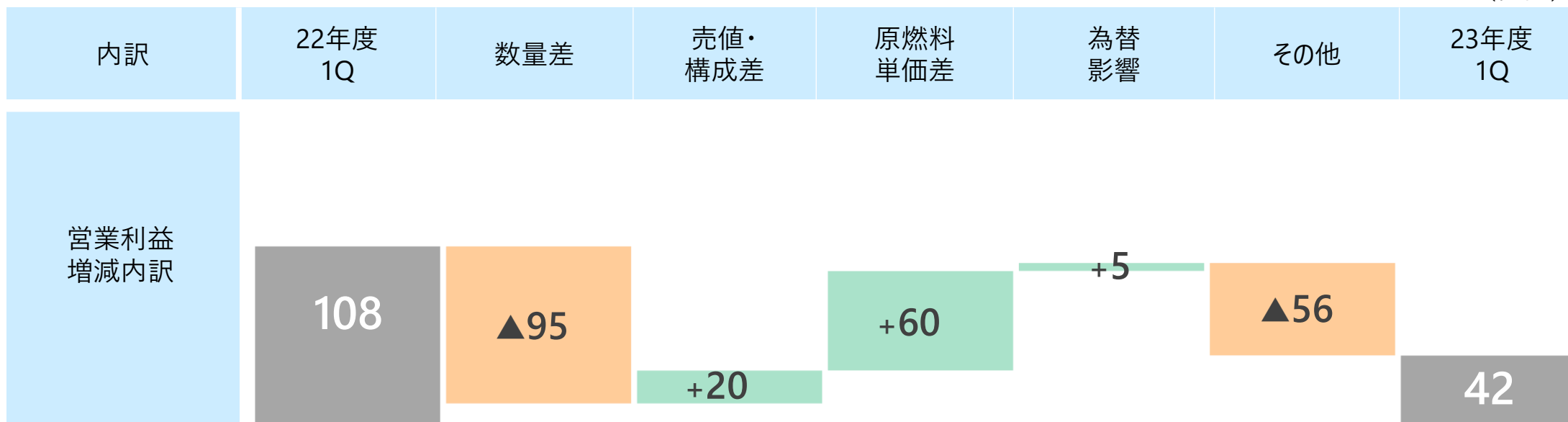
セグメント	主な特徴
マテリアル	<ul style="list-style-type: none">アラミドの大型定修は3年に一度（次回は2024年度1Q予定を2025年度1Qに延期）樹脂は毎年2Q、3Qに定修
繊維・製品	<ul style="list-style-type: none">衣料関係は3Qが秋冬物・4Qが春物シーズン
ヘルスケア	<ul style="list-style-type: none">4Qに経費集中傾向
IT	<ul style="list-style-type: none">2Q、4Qはシステム検収時期で納入増

◆ 営業利益増減（連結合計） [前年同期対比]

（億円）

	22年度 1Q	23年度 1Q	差異	増減率
売上高	2,438	2,448	+10	+0.4%
EBITDA	292	238	-55	-18.8%
減価償却費	185	195	+11	+5.8%
営業利益	108	42	-66	-60.8%
営業利益ROIC	5.2%	1.9%	-3.2%	-

（億円）



◆ セグメント別 売上高・営業利益 四半期推移 [前年同期対比、前四半期対比]

(億円)

	22年度*					23年度 1Q	差異 23/1Q -22/1Q	差異 23/1Q -22/4Q
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間			
売上高								
高機能材料	665	747	672	665	2,748	608	-56	-57
複合成形材料	375	440	416	408	1,638	450	+75	+42
マテリアル 計	1,039	1,186	1,088	1,073	4,387	1,058	+19	-15
繊維・製品	737	849	822	814	3,221	756	+19	-58
ヘルスケア	431	348	361	366	1,506	358	-74	-8
IT	129	144	143	164	580	162	+33	-3
その他	102	139	132	120	494	115	+13	-5
合計	2,438	2,666	2,546	2,537	10,188	2,448	+10	-88
営業利益								
マテリアル	-8	-50	-80	-75	-213	-20	-13	+55
繊維・製品	18	33	28	18	97	31	+14	+14
ヘルスケア	111	42	56	42	252	48	-64	+5
IT	15	20	19	27	81	18	+3	-8
その他	-12	5	1	-9	-15	-11	+1	-1
消去又は全社	-17	-15	-18	-22	-73	-24	-7	-2
合計	108	35	6	-20	129	42	-66	+62

*2023年度より新事業組織について、「マテリアル」、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。
それに伴い2022年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示

◆ 連結損益計算書 四半期推移

	22年度				(億円)
	1Q	2Q	3Q	4Q	23年度 1Q
売上高	2,438	2,666	2,546	2,537	2,448
売上原価	1,749	2,040	1,968	1,949	1,798
売上総利益	689	626	578	588	651
販管費	581	592	572	607	609
営業利益	108	35	6	-20	42
営業外損益	35	22	-31	-64	8
（内 持分法投資損益）	12	13	13	-50	-5
経常利益	143	57	-25	-84	50
特別損益	2	-4	-81	-23	23
税金等調整前四半期純利益	145	53	-106	-106	73
法人税等	67	43	39	-6	48
非支配株主に帰属する 四半期純利益	5	7	0	6	6
親会社株主に帰属する 四半期純利益	73	3	-146	-106	19

◆ 連結貸借対照表 四半期推移

	22年度				(億円)
	6月末	9月末	12月末	3月末	23年度 6月末
資産					
流動資産	6,030	6,331	6,088	6,133	6,542
固定資産	6,623	6,720	6,302	6,291	6,486
合計	12,653	13,051	12,390	12,424	13,028
負債・純資産					
負債	7,854	8,222	7,863	7,913	8,315
(内 有利子負債)	5,178	5,447	5,236	5,294	5,764
純資産	4,799	4,829	4,527	4,511	4,713
合計	12,653	13,051	12,390	12,424	13,028

◆ セグメント別経営指標 [前年度対比、前回見通し*1対比] ◆ 主要経営指標推移

				(億円)
	22年度 実績*2	23年度 見通し*3	差異	23年度 前回見通し*1
営業利益ROIC*4				
マテリアル	-6%	3%	+9%	3%
繊維・製品	7%	7%	+0%	7%
ヘルスケア	14%	10%	-4%	10%
IT	53%	66%	+14%	66%
合計	1.6%	4%	+3%	4%

	18年度 実績	19年度 実績	20年度 実績	21年度 実績	22年度 実績	23年度 見通し
ROE *5	11.2%	6.3%	-1.7%	5.5%	-4.1%	3%
営業利益ROIC *4	9.3%	8.7%	8.6%	5.5%	1.6%	4%
EBITDA *6 (億円)	1,076	1,072	1,068	1,130	878	1,130
1株当たり当期純利益 (円)	232.4	131.6	-34.7	120.6	-92.0	67.6
1株当たり配当金 (円)	70*	60	50	55	40	30
*100周年記念配当 10円/株を含む						
総資産 (億円)	10,207	10,042	10,411	12,076	12,424	12,800
有利子負債 (億円)	3,692	3,819	3,800	4,852	5,294	5,450
D/Eレシオ *7	0.90	0.97	0.94	1.10	1.25	1.2
D/Eレシオ (資本性調整後) *8	-	-	-	0.97	1.10	1.1
自己資本比率	40.2%	39.3%	39.0%	36.4%	34.2%	34%

*1 2023年5月11日公表

*2 2023年度より新事業組織について、「マテリアル」、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。それに伴い2022年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示

*3 前回見通しから変更なし

4 「営業利益÷期首・期末平均投下資本」にて算出 (*投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金)

*5 「親会社株主に帰属する当期純利益÷期首・期末平均自己資本」にて算出

*6 「営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)」にて算出

*7 「有利子負債÷自己資本」にて算出 (グロス表示)

*8 劣後債資本性調整後のD/Eレシオ (2021年7月21日 劣後債 600億円発行済)

◆ 主要医薬品 国内売上高実績推移

(億円)

品名	薬効	22年度					23年度
		1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q
糖尿病治療剤四剤合計		69	62	67	50	248	63
ネシーナ®	2型糖尿病治療剤	34	31	33	25	122	31
イニシク®	2型糖尿病治療剤（配合剤）	20	18	20	15	74	19
リオベル®	2型糖尿病治療剤（配合剤）	10	9	9	6	34	8
ザファテック®	2型糖尿病治療剤	5	5	4	3	17	5
フェブリク®	痛風・高尿酸血症治療剤	87	17	23	18	145	20
ボナロン®*1	骨粗鬆症治療剤	18	18	18	15	69	16
ソマチュリン®*2	先端巨大症・下垂体性巨人症、甲状腺刺激ホルモン産生下垂体腫瘍、膵・消化管神経内分泌腫瘍治療剤	14	14	15	14	57	15
ベニロン®	重症感染症治療剤	10	11	12	11	44	14
ロコア®	経皮吸収型鎮痛消炎剤	5	5	5	4	19	5
ゼオマイン®*3	上下肢痙縮治療剤	4	4	5	5	18	5
ムコソルバン®	去痰剤	4	4	5	4	18	4

*1 ボナロン®/Bonalon® はNV Organon(蘭)の登録商標です *2 ソマチュリン®/Somatuline® は Ipsen Pharma (仏)の登録商標です

*3 ゼオマイン®/Xeomin®は、Merz Pharma GmbH & Co, KGaA (独)の登録商標です

◆ 非財務情報 ESG外部評価

GPIFの5つのESG指数全ての構成銘柄に採用されています

FTSE Blossom
Japan Index2023 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)S&P/JPX
カーボン
エフィシエント
指数FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index2023 CONSTITUENT MSCIジャパン
ESGセレクト・リーダーズ指数

(注) MSCIインデックスへの帝人株式会社の組み入れ及び帝人株式会社によるMSCIのロゴ、商標、サービスマークまたはインデックス名の使用は、MSCIまたはその関係会社による帝人株式会社へのスポンサーシップ・宣伝・販売促進を企図するものではありません。MSCIインデックスはMSCIの独占的財産であり、MSCI及びMSCIインデックスの名称ならびにロゴは、MSCIまたはその関係会社の商標またはサービスマークです。

SRI（社会的責任投資）インデックスに組み入れられています

Member of
**Dow Jones
Sustainability Indices**
Powered by the S&P Global CSA

FTSE4Good



MSCI ESG格付評価において最上位の「AAA」を獲得しました

MSCI
ESG RATINGSCCC B BB BBB A AA **AAA**

日経SDGs経営調査で非常に高い評価を得ています

NIKKEI
SDGs
経営調査 2022 ★★★★★

・ 4分野全てにおいて「S以上」の高評価

ESGへの取り組みが優れている企業として、2つの国内プログラムに選定されています

健康経営推進

スポーツエールカンパニー
(ブロンズ認定*)* 認定回数5回～6回
の企業の呼称

TEIJIN

Human Chemistry, Human Solutions